

為替週間展望 = ドル円はもみ合いながら緩やかに上値を追う展開か

[5月29日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		5月22日～5月26日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	137.89	140.23(25)	137.50(22)	139.70	+1.72
ユーロ・ドル	1.0805	1.0831(22)	1.0707(25)	1.0736	-0.0069

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	30,916.31	+107.96	日本10年債利回り	0.423	+0.025
ダウ平均株価	32,764.65	-661.98	米10年債利回り	3.817	+0.145

< 来週の主要経済統計等 >

- 30日 日本4月雇用統計、日本4月有効求人倍率
 - 豪4月住宅建設許可件数
 - スイス5月KOF先行指数、スイス第1四半期GDP
 - カナダ第1四半期経常収支
 - 米3月住宅価格指数、米3月S&Pケースラー住宅価格指数
 - 米5月消費者信頼感指数
- 31日 日本4月小売販売額、日本4月鉱工業生産指数速報値
 - 中国5月製造業PMI
 - 豪4月消費者物価指数
 - スイス4月小売売上高
 - 独5月雇用統計、独5月消費者物価指数速報値
 - カナダ第1四半期GDP
 - 米5月シカゴ購買部協会景気指数、米4月雇用動態調査 (JOLT S)
 - 米地区連銀経済報告 (ページブック)
- 1日 中国5月財新製造業PMI
 - 独5月製造業PMI確報値、ユーロ圏5月製造業PMI確報値
 - 英5月製造業PMI確報値
 - ユーロ圏5月消費者物価指数速報値、ユーロ圏4月雇用統計
 - 米5月ADP雇用統計
 - 米第1四半期非農業部門労働生産性指数、米新規失業保険申請件数
 - 米5月製造業PMI確報値
 - 米5月ISM製造業景況指数、米4月建設支出
- 2日 米5月雇用統計

【前回のレビュー】米債務上限問題が合意に至るとの楽観的な見方や堅調な米経済指標からなどから、ドル円は堅調な推移が見込まれる。ただ、米債務上限問題で合意した場合は材料出尽くし感から、いったん上昇がストップして上値を抑えられ、高値圏では伸び悩みを見せる可能性があるとした。

【注目経済指標が強ければ一段のドル高に】

19日、米債務上限問題についての米政府と議会共和党の非公式協議から、共和党担当者が退席し、いったん協議中断となったことで、同問題への警戒感が再び強まった。デフォルト回避までの時間的猶予があまりない中での決裂は市場の警戒感を誘い、ドル売り円買いが一気に広がった。ドル円は138.60前後から137.43付近まで急落した。

ただ、その後は米連邦準備制度理事会 (FRB) 高官によるタカ派的な発言などを背

景にドル円は堅調な推移を見せており、140円超まで上値を伸ばす展開となっている。22日にブラド米セントルイス連銀総裁は「年内にあと2回の利上げを予想」「インフレ抑制のために利上げが必要になる」「市場ではインフレ期待が上昇してきている」と述べた。

また、同日にカシカリ米ミネアポリス連銀総裁は「6月のFOMCで利上げするかどうかは五分五分」「6月に利上げを見送った場合でも利上げサイクルの終了を意味するわけではない」「インフレ率の高止まりが続けば、7月から利上げを再開する可能性がある」などと述べた。

24日にはFRBのウォラー理事が「6月の会合で利上げを見送っても7月に利上げを再開する可能性がある」「インフレ率が2%に向かっていないと確信できるまでは利上げを停止しない」「7月は銀行の貸し出し基準が厳格化しなければ利上げに動くのが適切」などと引き締めスタンスを強調した。

25日の新規失業保険申請件数は予想を下回るなど、強い雇用が示された。また、今年第1四半期の米実質GDPは市場予想を上回り、ドル買いの動きにつながり、ドル円は半年ぶりに140円台を回復した。CME FEDウォッチでは、6月のFOMCでの0.25%の利上げ確率は40%前後となっている。6月に利上げを見送り、7月に利上げする確率は49%前後となっている。6月から7月に0.25%の利上げに動くとの見方が広がっている。

債務上限問題の交渉を横目に眺めながら、一連のFRB高官のタカ派発言を背景にドルが堅調な動きを見せており、ドル円は上昇基調で推移している。5月29日の週は注目度の高い経済指標が相次ぐこともあり、経済指標の動向に左右されそうだ。

5月31日に米4月雇用動態調査(JOLT)、1日に米5月ADP雇用統計、米新規失業保険申請件数、米5月製造業PMI確報値、米5月ISM製造業景況指数、2日に米5月雇用統計などの発表を控えている。雇用の強さなどが確認できる結果となるようなら、ドル買いに傾きやすくなる。利上げが続いてきた中でも米経済指標はそれほど極端に悪化しておらず、予想と比べて大幅な鈍化は見込みにくい。このため、ドル円はもみ合いながら緩やかに上値を迫る展開が見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、137.50~142.50円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、30日に日本4月雇用統計、日本4月有効求人倍率、米3月住宅価格指数、米3月S&Pケースシラー住宅価格指数、米5月消費者信頼感指数、31日に日本4月小売業販売額、日本4月鉱工業生産指数速報値、米5月シカゴ購買部協会景気指数、1日に米第1四半期非農業部門労働生産性指数、米4月建設支出などがある。

【ユーロドルは軟調な流れが継続か】

23日に欧州中央銀行(ECB)のラガルド総裁は、「ユーロ圏のインフレ率を2%の目標に戻すことを約束した。それが記録的なペースで金利を引き上げてきた理由であり、インフレを目標に戻すために十分に制限的な水準まで金利を引き上げ、必要な限りその水準を維持する理由だ」と述べている。ドイツ連銀のナゲル総裁は「インフレ抑制のために、あと数回は利上げする必要がある」などと発言した。

ただ、こうした発言の影響は限定的で、ユーロドルは下値を探る展開が続いている。ドルの堅調な流れの方が勝っており、ユーロドルは下落基調で推移している。ドルの堅調さを背景にユーロドルは軟調な流れが続くとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0500~1.0850ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、30日に豪4月住宅建設許可件数、スイス5月KOF先行指数、スイス第1四半期GDP、カナダ第1四半期経常収支、31日に中国5月製造業PMI、豪4月消費者物価指数、スイス4月小売売上高、独5月雇用統計、独5月消費者物価指数速報値、カナダ第1四半期GDP、1日に中国5月財新製造業PMI、独5月製造業PMI確報値、ユーロ圏5月製造業PMI確報値、英5月製造業PMI確報値、ユーロ圏5月消費者物価指数速報値、ユーロ圏4月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。